

留学を終えて

関高等学校 粥川 佳寿美（ドイツ）

この11ヶ月間の留学生活は、私にとってとてもかけがえのないものになりました。本音を言い合えるファミリー、一緒になって楽しめる友達、留学前には思ってもいなかった出会いがありました。

私のホームステイ先の町は、ドイツの中でも西に位置し、近くにはルクセンブルクやベルギーがあります。家からはワイン畑が見え、そのすぐ脇にはモーゼル川が流れる、とても自然豊かな地域です。日本の北海道とほぼ同緯度に位置しますが、本州の気候とそれほど変わりません。気候がはっきりとしているためか、ワインの生産が盛んな地域です。



モーゼル川の両岸は、ワイン用のブドウ畑が広がっている

ホストスクールへは、バスに乗って片道40分の道を通いました。ドイツの学校は、日本の学校と全く違い、驚きの連続でした。学校が半日で終わり、午後は授業がないことが当たり前でした。そのため放課後には、友達と買い物に行ったり、友達の誕生日パーティーに参加したり、友達と過ごす時間が、私にとってかけがえのないものになりました。日本に帰った今でもSNSで、最近の学校はどんな感じかや次の休暇は何するのかといったドイツのスクールライフを聞いています。そんな友達たちと日本で会う約束ができたことが、今の私にとって一番の楽しみになっています。



モーゼル川とライン川が合流する地域

夏休み前最後の一週間には、**poriject woche** というコーナーでモーゼル川を下ったり、知育ゲームをしたりするといった、幾つかのプログラムの中から、自分でやりたいことを選んで楽しむという行事がありました。ドイツの学校は夏休み後に学年が上がるため、私のホストスクールでは夏休み前最後の一週間を他学年との交流期間としてこのような行事がありました。また、学校の行事の中には、毎週

金曜日のお昼休憩の時間にクラス単位でクーヘン（ケーキ）やパンを焼いて持参し売る、「クーヘンスタンド」というものがありました。クーヘンを売り、そこで得られた資金を学校の運営費としていました。日本にはない興味深い活動でした。授業の中では学ぶことができない経済活動の勉強にもなり、また自分たちでクーヘンを作って伝統を受け継ぐことができます。ドイツと日本の学校の違いを知ってもらうにも、日本の学校でもクーヘンスタンドを開いて、ドイツを身近に感じてもらいたいと思いました。

マザーと世間話をする中で、日本とドイツの働き方に大きな違いがあることに気づきました。日本とドイツは似たような歴史を持つ国同士なのに、どうしてここまで違いがあるのか疑問に思いました。ドイツの多くの企業では、日本と同様朝9時頃から始業しますが、終業時刻が日本と随分異なります。多くのお店が18時には閉まってしまうのです。そして日曜日は、どこのお店に行っても営業をしていません。日曜日にスーパーに買い物に行きたくても、スーパーは閉まっているのです。実際に私が日曜日に買い物に行き、「そうだった、日曜日はどこも閉まっているんだ。」と、忘れて出かけてしまったことがありました。日本に比べて、ドイツの働き方は効率の良いものだと感じました。実際、私のホストマザーの会社は、土曜日曜が休業日であるほかに、毎週水曜日も休暇として仕事を休んでいました。さらに年間を通して、一か月ほどの長期休暇を取っていました。ドイツ人の社会人がとる休暇は日本の社会人の休暇より多く、人々がサイクリングをはじめとした様々な趣味を通して、余暇を楽しんでいるように感じました。日本で働いている人たちが、ドイツ人の働き方や余暇などの過ごし方を知ったら、ドイツ人の働き方に賛成する人が多いのではないかと思います。仕事と休暇の両方を効率よくとるドイツ人の働き方を見て、今の日本にはない働き方だと思い、将来自分が働くときにもこのような働き方ができるような社会が整っていればよいと思いました。

そして留学を決めた日から二年が経って、それまで気にしていなかった『日本という国と、世界のつながり』を実感することが多々ありました。日本の天皇が変わることや、歌舞伎とはどのようなものをホームステイ先のテレビで見かけたことがありました。また、ドイツの中にも日本人が多く住むといわれている **Düsseldorf** には仏教のお寺や日本庭園、日本食レストランが多くありました。ドイツにいるのになぜか日本にいるようなそんな奇妙な感じがしました。お昼時、ある日本食レストランの前に行列ができていた光景が、今でも忘れることができません。私が驚いたのは、そこに並んでいたのが日本人ではなく、ドイツの人や中国の人であったことです。ホストファミリーと日本食レストランに行った時も、日本食レストランで働いているのは中華系の人達であり、日本人が一切働いていませんでした。今日、日本食を日本国外で食べる時代になって、日

本の文化が世界に知られたことは日本人にとって誇らしいことですが、その日本食が果たして本当の、真の日本食として世界の人々に知られているかどうかは考えていかなければならないと思いました。日本の伝統的かつ代表的な食である寿司も、ドイツで食べることができる寿司の中には、オリジナルのものを多々見つけたからです。本物の日本食を世界に広めるために、今自分にできることを見つけないと思いません。

ドイツへの留学を通して、働き方や文化の発信、よりよい教育の在り方など、追究してみたい課題をいくつか見つけることができました。今後これらの課題を追求し、さらにドイツについて学んでいく、日本社会について学んでみるなど、将来の進路に役立てていきたいと考えています。この留学支援金を得てこれらの貴重な体験をしたり学べたりしたことに感謝します。そしてこの留学を実現させてくれた両親、ホストファミリー、留学団体にも感謝して、今自分にできる日本の文化を外国に情報発信する活動の場を広げていきたいです。



留学友達と